

伝統が人と人を結ぶ



「カンカン・・・ハイヤッ!」。甲高いドラの音とともに響き渡る威勢の良い掛け声。与座と米須、2つの地域で新型コロナウイルス感染症のまん延や、わら不足などの影響で長らく途絶えていた綱曳き行事が今年、再び開催されました。

与座では10年ぶりの綱作り、米須では6年ぶりの綱打ちが行われ、人々は胸を高鳴らせながら綱を編み、声を合わせます。そこで見えたのは、若い世代へ真剣に伝統を伝える姿、そして世代を超えて笑い合う温かな光景。綱と一緒に結ばれるのは人と人のつながりでした。

今月は、行事を再起させる苦労と、それを超えて、人々をつなげ、地域に活気と喜びを与える伝統行事の力に迫ります。

苦労を超えて、地域を一つに

与座区自治会長 伊敷 幸隆さん いしき ゆきたか



10年ぶりの綱曳きでも、まずは綱を作らないといけない。しかし、青年会もなければ、当時に比べて地域の人口も減り、元気で頼りになる先輩たちも少なくなりました。長らく行事もやっていない状況の中、このような事情もあり、何度も放送で呼びかけました。また、与座は婦人会もないため、お昼ごはんを作ってくれる女性を集めるのも一苦労。放送だけでなく、私が直接各家庭を回り、声をかけました。行事の実施が決まってから不安で眠れない日もありましたが、無事、綱作りを行うことができて良かったです。

与座大綱曳きは本来、5年ごとの開催ですが、前回はコロナ禍で開催できませんでした。そのため、10年も途絶えてしまい、若い世代は綱の作り方も分からない。だからこそ、今回は若い人に綱作りを教えようという共通の思いで臨みました。

世代を超えて集まる行事というのは多くありません。しかし、綱曳き行事は若い人もお年寄りも一挙に集まり、行事を成功させるという目標に向かって交流を深めることができる。今回、そうした光景を見たときに、頑張った良かったと思いがこみ上がったと同時に、この行事が人と人をつなぐ大切な行事だと改めて感じました。今回の再開をきっかけに、さらに地域が一つになり、盛り上がっていくことを願っています。



綱曳き行事が地域の大きな力に

米須自治会長 神村 進さん かみむらすすむ



新型コロナウイルス感染症のまん延や、わら不足で6年間綱曳き行事を行うことができず、地域の人の気持ちが行事から離れているのではないかと、綱の打ち方を忘れていたのではないかと心配していました。また、米須大綱曳きは今回で80回目の節目を迎え、これまで旧暦6月25日に行ってきたという伝統がある。しかし、今年は平日にあたるため、自治会内では「日曜日開催にしてはどうか」という意見もありました。これまでの伝統を簡単に変えてはいけないということもあり、今回はこれまで通り実施することにしました。

不安を抱えながら当日を迎えましたが、綱打ちから多くの人が集まり、先輩方が若い世代へ綱の打ち方を教えている様子や、夏休みの小学生が手伝う姿を見て、伝統行事が持つ力を再認識しつつ、地域の人々には伝統を守っているのだと、心強く感じました。

伝統行事は成功させるために行うものではなく、地域の人たちが行事を成功させるために団結し、地域の繁栄や人々の幸せな生活を願って行われるものです。綱曳き行事は、その思いを一人一人が団結して綱という形にすることで結束が強まり、地域の大きな力になる行事だと思っています。これからも伝統を大切に、地域の人と一緒に守り続けていきたいと思います。